

## 令和7年度日光市まちづくり懇話会(日光地域)概要

日 時:令和7年12月19日(金)午後3時00分～4時30分

場 所:日光公民館 視聴覚室

参加者数:○地域側参加者9名

○市側参加者(市長、副市長、企画総務部長、地域振興部長、地域振興課職員)

### 【市長】

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中ありがとうございます。

日光市内9地区で各地域を回って意見交換を進めてきました。私が市長に就任して初めての懇話会です。時間が限られているため、私が話すというより、皆さんからご意見を伺う場としてきました。今日は参加者が9名ですので、1人10分程度の時間配分になります。私も16時40分には次の予定のため移動しなければならず、ご理解ください。

来年度から第3次総合計画が始まります。大きなテーマ「変わるが始まる」と「ソーシャル・ウェル・ビーイング(Social Wellbeing)」に基づく10年間の計画と、そこに結びつく事業を進めていきます。

先日の自治会長の研修会では、特に女性の活躍が重要との話をさせていただきました。今後10年のまちづくりにおいて、日本全体でも地方自治体でも女性活躍は必須項目ですが、全国的に見て遅れている栃木県の中でも、特に日光市はその指標が低く遅れています。女性に目を向けてもらえなければ、これからの地方の発展はないということで、今後のまちづくりに女性の活躍を活かしていかなければならないことをお話ししました。この点を1つの柱として、G7で男女共同参画・女性活躍大臣会合が開催された地でもありますので、日光市が栃木県内をリードできるよう、意識を持ってまちづくりをしていきたいと思えます。

また、合併から20年を迎え、これからの10年は、これまでの一体感の醸成は継続しつつ、もう一度、各地域の資源・強み・特色をブラッシュアップし、地域に根ざした活動が重要だと思います。今市以外の地域は過疎地域に指定されています。私の持論として、「東京一極集中で地方に元気がなければ日本が盛り上がらない」という国の地方創生の考えは、日光市も同じだと思います。人口や立地的にも今市中心のまちづくりは仕方ありませんが、過疎地域の足尾・日光・栗山・藤原にももう少し元気がないと、市全体のまちづくりは進みません。若者や女性に住んでもらうためにも、過疎地域にもさまざまな事業を組み合わせ、まちづくりに取り組むというのが、市長としての私のテーマの1つです。

この後、皆さんの抱える課題やご意見を順番に伺います。なお、この場で答えられない細かい内容や数字的なものは後日ご回答し、重要なお意見は、来年度予算や行政運営の参考意見として持ち帰らせていただきます。

### 【参加者 A】

コロナ以降、内外からの観光客が増え、いろいろ問題が出てきているようで3点挙げました。

ごみの問題は、特に東町の国道沿いで問題になっています。飲食店組合など対応していますが、民間の努力だけでは限界があり、市としてもう一步介入していただきたい。最善の策は市の条例制定で、渋谷区の「きれいなまち渋谷をみんなでつくる条例」のように、市がもう一步介入し、個人や各団体の取り組みを更に徹底させれば方向性や解決策が見つかるのではと思います。例えば、市が圧縮機能付きの大型ごみ箱を、御幸町や旧市役所、神橋のトイレ近くに設置すれば、管理しやすいと思います。また、飲食店がばらばらに設置しても仕方ないので、市が補助などでも介入する形で統一的なものにすれば、景観にも合うものが

設置できるのではないかと。

次に、ポイ捨て吸い殻については、特に私の住む山内は問題なのですが、市にかなり立派な看板を作ってもらいましたが、徹底するためには市の広報や観光協会のパンフ、東武鉄道などの民間も含めてすべての発行物に、「市内はポイ捨て禁止」や「国道沿いや山内は路上喫煙禁止区域」といったことを、1行でいいので必ず記載してもらえればいいのではないかと。

また、横断歩道について、特に日没の頃は見えにくく視認しにくいこともあり、渡っている人のことが良くわかるように、昔あった旗などで認識しやすくしたら良いのではないかと。

これら3点のことは個人でやろうとしても難しいので、やはり市の指導力で進めてもらえれば徹底するのではないかと思います。

その他として2つほど。一つは携帯の電波のことで、土曜・日曜日や祝日は非常に混んで、通信が極端に悪く携帯電話が使えなくなります。私の家では固定電話しか使えない状況です。社寺でも通信事業者に要望しているようですが一向に改善しないので、ぜひ市からの働きかけをお願いします。もう一つは、総合計画のお話にありましたが、伝統産業・伝統工芸の育成・継承に、市の力をお願いしたい。各地域のものづくりを継承する力が弱いと感じますので、ぜひお願いします。

【市長】

ごみ箱については、今年 DMO の計画の中に、圧縮機能付きごみ箱の試験導入を盛り込みました。国の補助金を活用できるため、来年度になると思いますが試験的に設置して、ごみが減るのかどうか研究したいと思います。ごみ箱設置のお話はたくさんいただいています。管理の点で「溢れかえり、ごみがごみを呼ぶのではないかと」と心配する地元商店の方の声もありますので、圧縮機能についても研究したいと思います。費用は高額で、本格導入では市の負担も生じますが、試験導入では国の補助が使えることから進めようとしています。

条例について、私も今朝の渋谷区長の会見を見ました。「ポイ捨てに 2,000 円の罰則」ということで、罰則まではすぐには難しいかもしれませんが、意識啓発の意味では条例も一つの方策だと思っています。

【参加者 A】

対策を積極的に行っているお店にとっては良いと思います。やっていない店がごみを出しているかもしれないし、統一的なものにしなければ、熱心に取り組んだ店にごみが集まってしまうようでは不公平感が高まってしまいます。

【副市長】

電波については、これまでも二社一寺から話があり、企画総務部長がキャリアに働きかけてアンテナ位置の調整等を行ってきました。その中でキャリア側からよく言われるのは、世界遺産エリアに小さなアンテナを設置しなければ解消しないということです。先日、富山県で開催された世界遺産サミットにパネラーとして登壇しました。観光庁長官や文化庁職員の前で、世界遺産のエリアは木が林立していて電波が通りやすく、また人が多くなると繋がりにくくなり、インバウンド受入や緊急時対応に問題があるので、観光庁と文化庁で対策を考えてほしいと発言しました。実際にアンテナを立てるのはキャリアなので、キャリアとも何ができるかを検討しなければならないと思います。公の場での発言ですので、観光庁長官と文化庁長官がどのように受け止めたかはありますが、市も課題として認識しており今後も何らかの場で発言していきます。

【市長】

電子決済、デジタルと言っておきながら、ベースの部分がこれでは進まないですね。私もその都度、観光関係には話していきます。

【参加者 B】

観光行政について。日光の魅力度は全国12位と報道されています。さらに上位を目指すべきではないかと思っています。また、もう一度、市電を運行したらどうかと思います。さらに、外国人観光客が増えている中で、中国人は高市発言で減っているようですが、他地域の外国人の受入れ対応について、市長の考えを伺いたいと思います。

【市長】

全国1700自治体の中で魅力度12位、ブランド力は9位です。私も、名刺交換の場面で「日光」を知らない首長はまずいません。その力をまだまだ生かし切れていないと思っています。それはトップセールスのやり方で、もっと上手に発信してブランド価値を高めたいと思います。県内にも県外にも、SNS 発信や市としてのプロモーションなどがまだまだ足りず、私の公約でもありますので改善していきたいと思っています。

市電については、宇都宮の LRT が成功して、脱炭素・カーボンニュートラルの流れから、交通の面でも環境の面でも日光市に LRT をという話。例えば、駅から馬返しまで LRT が通り、馬返しから上部へは新モビリティの計画が県と東武鉄道とで進んでいますので、交通網の整備や、市が掲げる2050年までの脱炭素の話と合わせて考えれば、決しておかしな話ではありません。長期的な日光地域のまちづくりにおいて、LRT 整備の話は頭に置いておきたいと思っています。

外国人対応については、私がいま聞く限りでは、中国人の動向で市に大きな影響が出ているという話はありません。というのも、過去にも中国との摩擦があって中国人需要が落ち込んだ際に、事業者の皆さんが相当苦労されて学んでいます。宿泊事業者に限れば、中国人に依存していた事業者は分散化を進め、現在はヨーロッパや台湾、アメリカ、タイ、インドネシア、シンガポールなど、分散化して事業を構築済みなので、影響がゼロではないでしょうが、中国人の動向に左右されない経営をしていただいています。また、海外セールスについては、東アジアを重視して原点回帰し、来年度は観光協会・事業者と連携して台湾へのトップセールスを強化します。また韓国なども含めて、近隣や周辺の国に対して、リピーターを増やしたいと思います。1回目で二社一寺に来た方は、2回目以降は奥日光や湯西川など、奥の方へ入ってもらえるとの話も聞いています。東アジアにターゲットを絞り、誘客に取り組んでいきます。観光は日光の基幹産業ですので、私にできることは何でもやるとの思いで進めていきます。

【参加者 C】

宝殿地区は空き家が多く、ここ3年ほどで空き巣の被害が5件発生しています。一人暮らしで、施設に入所して不在になった荷物の残る家ですが、警察がいうには外国人が狙っているとのこと。警察とも連携していますが、難しい状況です。所有者の子ども等に連絡がつけば、自治会が見回っていることを意識してもらうため、少額の自治会費を納めて貰っています。また、腐って倒壊の恐れがある空き家になると、自治会としては壊してほしいのですが、連絡がつかずどうにもなりません。行政で所有者を調査してもらえれば、連絡がつけば壊すことを依頼できるので、その辺を市にお願いしたいです。

その他として、空き家を民泊にする動きで、地区内で7月から1軒始まり、他にも業者が空き家活用で動いています。空き家の解消に良いことだと思うので、私としては進めていきたいと思っています。自治会費を納めてもらっている方など、連絡のつく所有者には情報提供しています。

世帯数については減る一方で、空き家もただ朽ち果てていくだけで問題です。市として、この辺はどのように考えているのでしょうか。

【市長】

懇話会で市内9地区を回りましたが、自治会長の皆さんに集まってもらっていますから当然ですが、どの自

治会でも人口が減っていて自治会運営が成り立たない、加入者数と加入率が下がっていて、5年後や10年後に自治会運営はどうなるのか、というご意見が一番多かったところです。

順番が前後しますが、民泊について宝殿で始まったとのこと。他の自治体では民泊でトラブルの話は聞きますが、今までゴミの問題や騒音などのトラブルはありませんか。

【参加者 C】

ごみは業者委託で掃除し回収していくので、町内のごみステーションには出されません。楽天のホテルもありますが、同様にすべて業者委託で町内に迷惑なことはありません。最初の頃、宿泊客が外でバーベキューをやって騒いだので、それは業者に話してすぐにバーベキューは禁止になりました。それぐらいです。

【市長】

空き家については、市全体で約3,000棟を把握しています。それらを危険度などでランク付けし、「特定危険空き家」の解体には50万円の補助制度があります。ただ、さらに下のランクを考えたとき、3,000棟に対して10万円を補助しても3億円になるので、空き家の課題は市としても二の足を踏んでいる状況です。

【副市長】

所有者不明や連絡のつかない空き家について、倒壊の恐れなど周辺に著しい危険がある場合、建築住宅課が現地確認の上、所有者が分かれば連絡等の対応を行っていると思います。問題は倒壊の恐れなどの危険度の線引きですが、心配であれば自治会長から建築住宅課へ「見てほしい」とご相談いただければ対応します。行政センターへご相談いただければ建築住宅課に繋がりますので、ご検討ください。

【参加者 D】

和泉自治会の課題は少子高齢化です。約140世帯で、先住の方は3割で外から来た方が多く、その人たちの高齢化・単身世帯化が増えていて自治会活動にも支障が出ています。市の自治会加入率60数パーセントから見れば、ほとんどの方が加入してはいますが、住んでいる人が高齢で体が不自由になったとき、とても住みにくい地域だと感じています。その辺を自治会としてどのようにカバーするか。自治会長や民生委員には要援護者名簿が届いていますが、見守る人も夫婦であれば高齢なので、その家族だけで対応するのは難しく、周囲がどのように支援すればよいか、自助・共助の共助の部分で非常に悩んでいます。地域として、自治会としてどのように関われば良いか、行政のアドバイスや指導、良い事例・仕組みの紹介をお願いしたいと思います。

もう1点は防災対策ですが、市の防災計画では、和泉の避難所は旧野口小学校とされていますが、道路が極めて狭く入り組んでいて、国道からしか行けないなど、実際の避難経路としては厳しい状況です。今年から学区が今市小・東原中に変ったので、避難先としては今市文化会館の方が近いなど、防災計画の変更もあり得ると思うので、市と協議しながら防災対策を考えなければと思います。日光市の自主防災組織の組織率は100%だと思いますが、組織ごとの防災計画を作っているケースは少ないのではないかと。この地域にマッチした防災計画は、地域で作らなければなりません、テーマが大きく、要援護者への対応などを考えると独自の防災計画は難しい面があり、その辺りも指導していただけたらありがたいと思います。

【市長】

地域のコミュニティを維持するために高齢者を支援する仕組みですが、足尾や栗山では、独自の取り組みを行っています。ボランティアではお互いに気を遣うし、全てをボランティアではカバーできないので、チケットを発行して、チケット1枚で車に乗せてもらえたり、家の中の手伝いをしてもらえたりというもので、そこに社会福祉協議会も関わるような仕組みです。ただ、それが上手く機能しているかというところでもなくて、助ける側の人たちも高齢化で人手が不足するなど、その中で課題も聞いています。互助・共助の仕組

み作りについては、後ほど具体例を和泉自治会に紹介できればと思います。いずれにしてもマンパワー、若い人も含めて、地域に「支える人たち」がどれだけいるかということにはなりますね。この話は防災にも通じるもので、自主防災組織は100パーセント近いですが、実際に組織を動かせるのかというと、高齢化の問題で機能しないだろうという厳しいお話もいただいています。

【副市長】

総務課が今、それぞれの自主防災組織単位での、地域の年齢層に合った地区防災計画の策定を進めています。策定済はまだ10地区程度ですが、市はどんどん広げていきたいと思っています。担当職員が地域に向き、様式に基づいて策定をアドバイスできますので、ぜひ総務課にご相談を。

【参加者 D】

実は5月に相談に行きました。資料も貰って取り組もうとしたのですが、先ほど話した高齢者の対応などがネックになっています。あまり難しく捉えず、誰がどのように動けるかというところから考えてもいいかもしれないし、自治会として考えるべき部分ではありますが。

【副市長】

市側も総務課だけでなく、要支援者は社会福祉課の所管でもありますし、関係部署が連携して一緒にアドバイスするなど、今日は企画総務部長もおりますので、その旨総務課に伝えてもらいます。

【企画総務部長】

計画自体、全てをやろうとすると難しいのだと思います。できるところだけとか、高齢者をどうするとか、相談してやり方を考えるだけでも違ってくるかなど。他の地域でも似た話がありましたので、上手くやれるようにしたいと思います。

【参加者 D】

そういった話を地域でもらうような機会を設けたいと思います。

【市長】

個人的には、自治会単独では難しくなっていて、広域化する必要があるのだと思います。隣同士の自治会での連携や、国が示す小学校や中学校単位の連合組織化など、将来的には必要です。自治会運営や防災、さらには事業者や団体も組み入れて、地域一体となってコミュニティを作っていく時代になると思います。特に日光市は広いので、「うちの自治会は5年後には何もできなくなる」という話も聞いていて、集落が分散している地域もたくさんありますので、少し大きな課題ですが市でも認識しております。

【参加者 E】

宮小来川は少子高齢化で、今年3月に小中学校が閉校、来年度に保育園も閉園予定で、教育関係の施設がなくなりました。子どもは東原中・第三小へ元気に通っているのですが、学校がなくなり地域の活気もなくなりました。若い人に戻ってほしいのですが、話を聞くと「小学校、中学校がないなら戻らない」という声が大きく、「保育園がないなら出ていく」という話を多く聞きます。これを市にどうにかしてくれということも難しいと思っていて、若い人に戻ってもらい、子どもが生まれれば、市にお願いして保育園も再開して、という話はあるのですが、現実には仕事がないので、鹿沼や宇都宮に移り住むしかないということです。地域を活性化する方策が浮かばず、もう一度小来川を活気づけるためにどうすればいいのか、小来川6自治会の悩みです。

また防犯について、去年は空き巣が14～5件あり、今年は市の補助を受けて、各自治会が防犯カメラを各公民館に4台設置しました。補助は「1自治会に1台」との制限はあるのでしょうか。

【地域振興課長】

1年に1回との制限はありますが、台数の制限はなかったと思います。

【参加者 E】

というのも、場所が入り組んでいるため、Y字路やT字路に増設したいと思っています。あと何台か設置できれば、小来川地区としてはありがたいです。

最後に、保育施設の会議で、日光地域の公立保育園は閉園の方向との話を聞きました。今市地域は4つの保育園が合併して「おひさま保育園」が出来たと思いますが、日光地域の日光保育園と所保育園を合併させる考えはないのでしょうか。あくまでも閉園ということで進んでいる印象でした。輪王寺付属幼稚園が認定こども園になるとか。保育園と幼稚園の費用に差があるように思うのですが、保護者の負担が増えないか心配です。

【市長】

現在の日光地域の子どもの数から見て、清滝幼稚園があり、輪王寺幼稚園があり、各保育園があるので、幼稚園の共倒れが起きる恐れがあります。全て無くなることを防ぐには、1つに集約しなければならない。そこで、保育園を廃止するかわりに、幼稚園に保育機能を持たせて認定こども園にすることです。場所については、子どもが通いやすいことを重視して検討中です。あり方検討委員会で議論していますので、ご意見があれば委員会でお話してください。

【参加者 F】

東町のまちなみ整備事業について、県との関わりで民間が介入できない部分があります。今、工事は下鉢石に入っていて、県資料では「御幸町工区は完了」との扱いですが、町内にセットバック未了が5件あります。うち3件は借地で、工事前の県の説明では「県が交渉するので、借受人は大家と直接交渉しないでくれ」とのことでしたが、2年前に双方が弁護士を立てて話をしていると聞きました。当初の県の説明は何だったのか。この話で何度も県に情報開示を求めても「個人情報で教えられない」と言われました。県がやるのか個人がやるのか、責任の所在を明確にした方が話は先に進むと思います。また、残り2件は世帯主が亡くなっていて、それぞれ相続人が分かっているので相談は可能ですが、県の動きが一向に見えず、こちらも情報開示を拒まれています。工区に借地が含まれる御幸町特有の問題を解決せずに、県が「完了」と言っていること自体、地元住民としては納得できません。

また、30年前は事業が進むにつれて空き地が増えることを想定していましたが、実際には駐車場が増えています。駐車場も景観上は問題ありますが、規制も難しいと思います。しかし、駐車場を作るに当たって、「国道沿いならこんな風に」などの基準が必要な段階に来ていると思います。

もうひとつ、御幸町と下鉢石の堺の歩道部分が数年前の大雨で流されました。その後の会議の中で地元からも意見していて、「次の下鉢石工区の工事の中で整備しなおす」ということが決まりました。ところが、石屋町の歩道の中にも段差が生じていて、段差注意の看板を立ててあり、この部分も併せて直して欲しかったなど。県には、単に整備だけでなく、その後の補修・修繕まで見据えた対応をお願いできればと思いますので、情報開示、基準と合わせて、市からも県に要望してもらえればありがたいです。

人口減少と高齢化については、御幸町は戸数が230から160世帯に減り、未加入世帯もあります。まちなみ整備事業は「祭りのまち」と書いて「いのりのまち」と読ませていて、二社一寺に関わる役をやっていくための整備事業で始まったはずですが、出店事業者は多くても住む人が少ないのでは、祭りを維持できなくなってしまう心配があり、意識づけが必要で、やってもらいたいと感じています。私はコロナ明けに7件ほど移住者の対応をしました。日光に住みたいという人はいますが、どこに相談してよいかわからないということのようです。空き家バンクも商売なので移住者を優先することはなく、民泊事業者が取得して、いつの

間にか民泊が始まるケースがあります。民間の話で仕方ないことですが、我々としては民泊よりは住んでくれる人、民泊でもそこに住んで民泊を営む人に来てほしいと思います。そして連絡先の明示、自治会加入、ごみや騒音などのルール遵守を徹底してほしい。民泊も問題で、話を持ってくる人は口が上手くて、「私は日光が好きで日光に住みたくて」と言っておきながら、改装が終わる頃になって「来月から民泊にします」というケースが何件もあります。民泊のオーナーは市外で連絡がつきにくく、事故時など緊急時の対応が遅れがちになります。宿泊者が外で困っている様子で世話したところ、後からオーナーに「余計なことはしないでくれ」と言われたこともあります。全員という訳ではありませんが、オーナーの多くは単に民泊で金を儲けようという考えであって、「観光地日光のために良いことをしよう」という人は少ないように感じます。移住者優先の話は、少しお節介になって移住者の面倒を見ていると、その人たちが喜んで「近所にも移住者がいる」といった紹介や、「こんなに良い場所なら、兄弟姉妹・友人・知人にも勧めたい」という人が何人もいます。お節介ということも必要な気がしています。

伝統工芸では、日光茶道具の製造者のうち一人が亡くなって、いまは一人だけになりました。日光下駄も一人が高齢を理由に昨夏に引退し、現在は1か所のみで製造し1足3万円と高価です。下駄はお祭りの話で神社とも関係しますが、若い人に一足3万円の下駄を容易には渡せないというのが親の本音だと思います。しそ巻きとうがらしも店がなくなり地元製造が減っていると思いますし、継承が危うい品がいくつか出てきていますので、育成をお願いします。

【市長】

県の話以外の部分は、情報提供ということで承知しました。県の話は、市の担当部署に共有します。

【参加者 F】

先日のワーキンググループに危険個所の写真なども出したところ、日光土木事務所の所長からは「どんどん情報を出してほしい」と言われました。でも、その情報が担当者まで下りていかないの、今回の工区にも反映されなかったのだと思います。一応、市の都市計画課にも話してあります。

【市長】

改めて都市計画課に共有したいと思います。

【参加者 G】

少子高齢化で、何とか現状維持でいければと思います。それには、学校中心でいろいろな行事を取り扱ってほしい。また公民館講座の充実について、夜間の開催や著名講師の招聘で、若い人が参加しやすくしてほしい。現在の公民館の体制は館長が係長級だが、課長級でなければ難しい場面があるように思います。スタッフも3~4名程度では、これからの少子高齢化への対応が難しいと思います。社会福祉協議会も人員・予算が減る中で大規模なイベントを少人数で対応していて、人員体制を強化しないと高齢化で何のアイデアも出なくなってしまう。

伝統行事・芸能の再考については、小中学校に相談すれば、いくらでも受け入れてくれるそうなので、なくなりそうな場合は学校に相談すればいいかなと思っています。

ニュースポーツは、先日、自治会でもやってみました。今までやったことのないスポーツもあり、子どもから高齢者まで楽しめました。体育館や公民館でニュースポーツの普及を図ってもらえたらと思います。

【市長】

小学校や中学校が地域の核であるというお話と、子どもの教育環境という話があります。日光市はこれまで、小中学校の統廃合が比較的スムーズに進みました。地域から学校がなくなる・核となる施設がなくなるのはさみしいという話はたくさんありつつも、一方で、子どもの学習環境や生活環境、そして教育に対する

親の考えを尊重しなければいけないということで、あまり地域と行政の対立もなく進んできました。ここから更に学校のあり方を考えたとき、想定よりも子どもの人数が減っている中で、「1学年20～25名程度を目安に多様な教育環境の確保」という市の指針をもとに、いま統廃合に関する計画を整備しているところです。

一方で、先ほどの小来川のお話にもあったように、小中学校がなくなるとイベントや行事に子どもの参加が難しくなるし、集まれる場所としての役割もあるので、いただいたご意見も参考にさせていただきながら、学校のあり方を検討していきます。

#### 【参加者 H】

民生委員の立場から、高齢者の終身サポート体制を日光市で始めてほしいと思います。これは、高齢者の単身化などで、入院・入所時の保証人が不在で入れないとか、日常生活の支援、亡くなった後の事後処理などで困難な状況が生じていて、包括的な支援が必要だからです。都市部では民間企業が取り組む例もありますが、倒産リスクもあります。日光市は人口規模的に民間に任せることは難しいので、市と社会福祉協議会等の連携で全国に先駆けて公的なサポート体制を作れば、人も増える可能性があると思います。

音楽家としては、文化会館について。今市文化会館の閉館前に集めた署名は6,600人で、日光市の人口に対して大きな数です。日光小学校吹奏楽部の保護者に話を聞いたところ、市内に会場がなく鹿沼で発表したが、移動が不便で親の負担も大きいとの話でした。300人以上が集まる場がないことから文化会館は必要で、大規模でなくてもいいので、文化の発祥の地として発表の場が必要です。真岡市の文化会館は、いちご会館としてリニューアルした良い事例です。耐震の問題は、再調査して精査すれば問題ではない可能性もあるのではないかと。とにかく、早期にリニューアル等で文化会館を再生してほしいというのが願いです。もうひとつだけ、避難所について。私の住む久次良地区は小学校も中学校もなくなり、避難所がどうなっているのか、地域住民は分かりません。私の地区では、「広域避難所がここで、一次避難場所に集まってから避難して」というマップを全戸配布したのですが、これが今も有効なのかどうか分からない。広域避難所が「閉鎖されても使える」との話と「水道なども止まっていて使えない」との話、両方あって情報が錯綜しています。3年後には高校もなくなり、残るのは保健福祉センターだけで、とても収容しきれません。改めて、どこに避難すれば良いか、大至急、各戸配布で周知してほしいと思います。

#### 【市長】

文化会館については、一般質問でも答えましたが、必要だと強く思っていますし、教育的な観点で、保護者の皆さんから私もお話をいただいています。子どもたちのことを考えれば、将来に負担をお願いしてでも、ある程度の規模の文化会館は必要です。そこで、市の財政面や持続可能性、中長期の維持管理を含め、庁内で枠を広げて検討しています。市民検討委員会は現在休止しているのでオープンにできない部分もありますが、何もやっていない訳ではなく、内部では策の検討を進めていますので、この場を借りてお伝えしておきます。

#### 【副市長】

避難所については、閉校した学校が避難所として使えるかどうかは施設ごとに異なるため、担当課に確認の上でお知らせします。

#### 【参加者 I】

私は今年、商工会議所の女性部や法人会女性部に参加させていただくことになりました。もともと観光業に携わり、東町組合などでまちのこと、観光のことをずっと考えてきましたが、2025年は直接、女性の現場の声を広範囲で聴くことができました。商売をしている女将さんの集まりですので商業目線になります

が、ホテルは基本的に人手不足が深刻で、少子高齢化が影響している印象です。ホテルや飲食店の現場は人が足りず、夕方には女性が疲弊しています。私は、女性の疲弊したまち、笑顔のないまちは「花がなくなる」と思っています。明峰高校の美味活に関して高校生と話したり、孫の小学校のPTA事情も聞いたりすると、自分の子育てのころと環境が変わっていて、地域のコミュニケーションも大きく変化しています。幸せの感度の差が激しいと感じています。子どもは親を選べませんから、親次第で子どもの体験格差が広がっています。その格差をなるべく生まない子育てをするにはどうすべきかと考えたとき、基盤となるお母さんやおばあちゃんが元気なことが重要で、女性が発言できる場、支え合える仕組みが必要です。観光誘致でお客が増えるのはありがたいことですが、人手不足で現場対応が追いつかないのが現実です。もっと一人一人に丁寧に対応したいができない。それなら仕事を分けて、例えば掃除は清掃会社に任せるなど役割分担を進め、得意分野で仕事を分け合えば良いのではないかと思います。

私は目の前のレシート1枚でも拾います。街をきれいにし、観光客にも「きれいな街」としてもらいたい。この思いを、いろいろな会に参加することで、皆さんに伝えられればとの思いで活動してきました。また、私は「みんなが笑顔できれいでいられるまちにしたい」と思っていて、今日は市長のビジョンを肌で感じたくて参加しました。市長が目指す日光市では、例えば5年後に女性はどんな顔をしていますか。というのも、女将さんたちが笑顔で元気なまちだったら、面白くないわけがないと思いますので。

#### 【市長】

第3次総合計画に掲げる「ソーシャル・ウェル・ビーイング」は、まさしく今、お話いただいたことです。金銭的・身体的・精神的に加え、社会的なつながりも含めて、こころもからだもトータルで他のまちにはない日光市を作っていこうという考えです。あのまちには「あれ」があるから日光市にも、と他自治体と競うのではなく、日光がこれまで培ってきた文化・歴史・まちづくりを大切に、市民の理解のもとで、こころとからだの豊かさを保っていこうというものです。考えていることは同じですし、女性が核になることも承知しました。時間の関係で後半は駆け足となり、十分にやり取りできませんでしたが、全て記録して各課で共有し、その後についても把握しますので、ご理解ください。貴重なご意見を多数いただき、今年最後にふさわしい懇話会になったと思います。守るべきものは守り、攻めるべきところは攻めるまちづくりを進めますので、引き続きご協力をお願いします。本日はありがとうございました。